

# 長坂峠

齋藤 美和子

- 山行年月日:2022年4月28日
- メンバー:齋藤美和子 大竹尚子
- コースタイム:本名駐車場 7:07~8:00 坂瀬川石の祠 8:10~8:24 坂瀬川 8:30~10:00 長坂峠 10:10~11:30 三条集落跡 11:50~13:40 本名駐車場

「長坂峠は、昭和30年代から全く使われなくなった峠道である。坂瀬川の対岸に見える鞍部は峠越というよりは登山の対象。林道を標高400mまで下り坂瀬川を右岸にわたり590mの長坂峠まで登り尾根筋を西進し旧三条の南側に下る。残雪期のころに勧めたいハードな峠越である。」森澤堅次 一登峠 会津篇 歴史春秋出版 KK p42-49, 1997。

本名の集落を過ぎ林道に入る。入口に山菜取り禁止、窃盗ですと書いてあった。雪はほとんど消えている。歩いていくと確かに林道沿いは山菜畑である。少し進むと4基の祠があった。立派な杉の木もあった。ここから沢に降りていく。なんとなく道型あり。心配した坂瀬川は狭く水量も少なく全く安全に渡れた。沢沿いから斜面を登ると段々地が出てくる。中腹に立派な杉が植えてあった。目印であろう。道型はないが、これは正しいルートと判断した。その後も徐々に高度をあげる。稜線に乗り尾根を進むが、一部は結構なやぶ。しかしそのあとの稜線は細いがしっかりとした道型があった。ブナの葉はすっかり開いてきてい

た。尾根沿いの道型を進む。切通もある。イワウチワの群生すごい。切通を過ぎたところに山毛櫨に切りつけが沢山あった。H3のものがあった。ここらが長坂峠かな。使われなくなり約60年過ぎても、道型がしっかり残っていることに感激。ここから順調に下る。最後のところはかなりの雑木藪になったが、堰堤に出て杉林の中を通り三条集落跡の手前が出る。雪が残っていたが林道はしっかり除雪してあった。屋敷跡にはフクジュソウが咲き乱れていた。早春の景色を堪能しながら戻った。昔を思い起こせた山旅であった。一人では難しかったなあ。少し間違えば険しい沢に出てしまう。奥深い山道であった。尚子さんありがとうございました。また宜しく願いいたします。



長坂峠手前の切通し